

親を学び伝える学習プログラムについて

各段階ごとに、また、エピソードごとに
使用方法を解説します。

プログラムメニュー

1 親となるための準備期プログラム（ワクワクを楽しもう！） 活用手引き p42～

- ある日の親子の会話から（親の役割ってなんだろう？）
- 静香さん（中学3年生）の日記から（親ってたいへんだ！）
- 良んと萌さんの会話から（家事・育児は女性の仕事？）
- 迷う恵梨花さん（子育てはガマンと忍耐？）
- 働かなければ大人じゃない？（働くことを考えてみよう！）

2 乳幼児をもつ親のプログラム（ドキドキを楽しもう！） 活用手引き p50～

- 赤ちゃんの行動や言葉をまねてみましょう！（赤ちゃんと体験を共有しましょう！）
- 赤ちゃんの感情の調子に波長を合わせてみましょう！
- 忙しいお母さん、話をきいてほしい太郎君（子どもと向き合おう！）
- ついイライラしてしまうお母さん（イライラに対処する）
- 保育園から絵本を借りてきたよ！（子どもの気持ちを受け止めよう！）

3 学童期の子どもをもつ親のプログラム（イキイキを楽しむ！） 活用手引き p52～

- 健太郎君とお父さん（自立の後押し！？、親の出番は！？）
- 参観日の母親の姿（規範意識が低いのは、おとな？子ども？）
- 子ども同士のけんかに親がかかわり（かかわり方を考えよう！）
- 運動会は誰の競争？（もう6年生なんだから・・・！）
- 地域とのかかわり（親も子も地域で育つ）

4 思春期の子どもをもつ親のプログラム（ハラハラを楽しむ！） 活用手引き p56～

- 由香のお手伝い（いつまでも子どもとっていたら！）
- 健一の友達とのトラブル（子どもの問題に向き合おう！）
- 智也の通学（いつまでも手をかけていませんか！）
- 夕飯時の携帯電話（ゆらぐ自我に向き合おう！）
- 地域デビュー（社会に踏み出す！）

3 「学童期の子どもをもつ親の学習プログラム」活用手引き

1 プログラムの趣旨

学童期の子どもをもつ親の学習プログラムでは、おもに小学生の保護者の方々に、家庭における子どもとのかかわり方や、小学校生活で起こりうる様々な課題とどのように向き合うか、さらに子ども達の心身の成長を促すための生活体験や地域とのかかわり方についても具体的に考えていただきます。そしてグループワークを通して、親の想いを共有したり、小学生期の子育ての悩みや、課題について話し合い、子育てのヒントや元気を得ていただく目的で、バラエティーに富んだエピソードを提示したプログラムを作成しました。

幼児期までは、日常生活が保護者や幼稚園・保育所の先生方などのおとなの目がゆき届く範囲で、見守られながら依存的に行われることが多いでしょう。しかし、小学生ともなると、家庭でも学校でも、通学に代表されるように、自立的に一人で、あるいは子ども同士で行動しなければならない場面も多くなります。このような時期に、いつまでも子どもに親の思いを押しつかけたり、過保護・過干渉なかわり方を続けると、子どもの自立的行動や、その意欲を阻害してしまうことにもなりかねません。そこで、学童期の子ども達が、スムーズに自立を目指し、自尊感情や自己肯定感を育てていくために、親は何ができるのかを考えるために五つのエピソードを準備し、どのエピソードからでも取り組んでいただけるようにワークシートを作成しました。

プログラム使用対象者は、基本的には、「学童期の子どもをもつ親」ですが、エピソードの選択や、グループワークの課題選択を工夫することで、親となる準備期の学生達（中、高、大学生）や、乳幼児の親、思春期の子どもの親のみなさんにも使用していただけますので、「プログラム使用の流れ」の表を参考に、柔軟にご使用ください。

2 プログラム使用の流れ

このプログラムを活用するために必要な時間は、「参加者人数」やグループワークで選択するエピソードの数、またどこまでをグループで行うか、グループごとの発表を行うかにより、違いがありますので、各作業のおよその必要時間数を下記に例で示します。なお、グループごとの発表時間を確保したほうが、実践や参加後の満足度は高くなるようです。

3の表1 プログラム使用の流れ（①エピソード 健太郎君とお父さん）

作業	時間	活動	留意点
エピソードを読む	5分	1 各自、健太郎君やお父さんの気持ちに近づいて黙読をしましょう。	○健太郎君とお父さんのエピソードから自分にも似たような経験がないか思い出してみる。
Qに答える	3分	2 小学生の頃の自分を思い出してみましょう。	○子どもの目線に近づいてみる。
グループワーク			
1～5について自分の経験を記入する	10分	3 難しく考えず、思い浮かんだことを気楽にメモしましょう。	○子どもであった自分と、親になった自分を再確認してみる。
4～5人のグループでテーマを選んで話し合う	20～30分	4 時間の余裕をみて、選ぶテーマは2, 3個でも良いし、全てでもかまいません。	○人の経験や意見を聞き様々な考え方や、生き方があることを認め合う。
発表	3分×グループ数	5 同じテーマや異なるテーマを選んだグループの意見も聞き合みましょう。	○多くの経験や考え方を共有し、考え方の幅を広げる。

時間が許せば、または後から各自で、P 28、29のワークシートに答えてみましょう

3の表2 プログラム使用の流れ (②エピソード 参観日の母の姿)

作業	時間	活動	留意点
エピソードを読む	3分	1 各自、黙読をしましょう。	○保護者としての自分たちの姿をふり返る。
Q1, Q2に答える	5分	2 自分たちの参観日の様子を思い浮かべながら考えてみましょう。	○自分の考えを表現する。
グループワーク			
役割を決めエピソードを読み合う	5分	3 母、息子、父の役割を決めて、読みあってみる。	○役になってみることで、それぞれの気持ちに近づいてみる。
Q1, Q2について、4~5人のグループで話し合う	20~30分	4 司会進行や記録する人などを決め、全員が意見を言い合う。	○人の経験や意見を聞き、様々な考え方があることを認め合う。
発表	3分×グループ数	5 他のグループの意見も聞き合いましょ。	○より多くの経験や考え方を共有し、考え方の幅を広げる。規範意識について色々と意見を出し合ってみましょう。

時間が許せば、または後から各自で、P 28、29のワークシートに答えてみましょう

3の表3 プログラム使用の流れ (③エピソード 子ども同士のけんかに親がかかわり)

作業	時間	活動	留意点
エピソードを読む	5分	1 各自エピソードを黙読しましょう。	○自分にも似たような経験がないか思い出してみましょう。
Q1, Q2, Q3に答える	7分	2 子どもの気持ち、親の気持ちになって考えてみる。	○子ども、親それぞれの気持ちになって考え、自分だったらどうするか、正直な気持ちで考えてみましょう。
グループワーク			
役割を決めエピソードを読み合う	5分	3 母と子どもの役を決め、交代しながら読んでみる。	○できるだけ子どもや、親の気持ちに近づくとともに、相手の子どもや親の気持ちにまで思いを馳せてみましょう。
Q1~Q3について話し合う。	20分	4 子どもの気持ち、親の気持ちについて話し合った後、自分だったらどのように対処するか理由も合わせて考えましょう。	○子どもと親の両方の気持ちを考えながら、対処の仕方によって、どのように展開が変わりそうか、想像してみる。子どもにとっては何が成長につながるかを考えてみる。
発表	3分×グループ数	5 他のグループの意見も聞き合いましょ。	○多くの経験や考え方を共有し、考え方の幅を広げながら、子どもの成長や、先の展開を予測して行動することの必要性を考えてみる。

時間が許せば、または後から各自で、P 28、29のワークシートに答えてみましょう

3の表4 プログラム使用の流れ (④エピソード 運動会は誰の競争?)

作業	時間	活動	留意点
エピソードを読む	5分	1 各自、エピソードを黙読をしましょう。	○自分の家族でも似たような経験がないか思い出してみる。
Q1～Q3に答える	10分	2 エピソードで疑問に感じたところにアンダーラインを引く。それぞれの家族の立場で考えてみる。	○エピソードの疑問点から、母、父、祖父母の気持ちになって再検討し、子どもの自立を促す関わり方について考える。
グループワーク			
アンダーラインを引いたところを紹介し合う。	10分	3 正しい答えがあるわけではないので、なぜアンダーラインを引いたのかの理由を紹介し合い、人の考えに耳を傾ける。	○人によって考え方が様々であることを再認識し、新たな気づきができれば良いでしょう。
親や祖父母の気持ちについて話し合う	20～30分	4 父、母だけでなく祖父母の気持ちにも近づいてみる。	○子どもの自立のために家族ができることをそれぞれの立場で考えてみる。
発表	3分×グループ数	5 他のグループの意見も聞き合いましょう。	○様々な立場の人達の経験や考え方を共有し、学び合うことの意義も実感する。

時間が許せば、または後から各自で、P 28、29のワークシートに答えてみましょう

3の表5 プログラム使用の流れ (⑤エピソード 地域とのかかわり)

作業	時間	活動	留意点
エピソードを読む	3分	1 各自黙読をしましょう。	○自分達の地域にも似たような状況がないでしょうか。
Q1～Q5に答える	5分	2 様々な地域活動について考えてみましょう。	○家庭と地域のつながりや、役割について考えてみましょう。
グループワーク			
4～5人のグループで回答について話し合う	20～30分	3 各自の考えを紹介しあっても良いし、時間が少ないときは、質問毎に考えを話す人を分担したも良いでしょう。	○人の経験や意見を聞き様々な考え方や、生き方があることを認め合う。
発表	3分×グループ数	4 他のグループの意見も聞き合いましょう。	○多くの経験や考え方を共有し、これから自分が考えていくヒントや材料にしましょう。

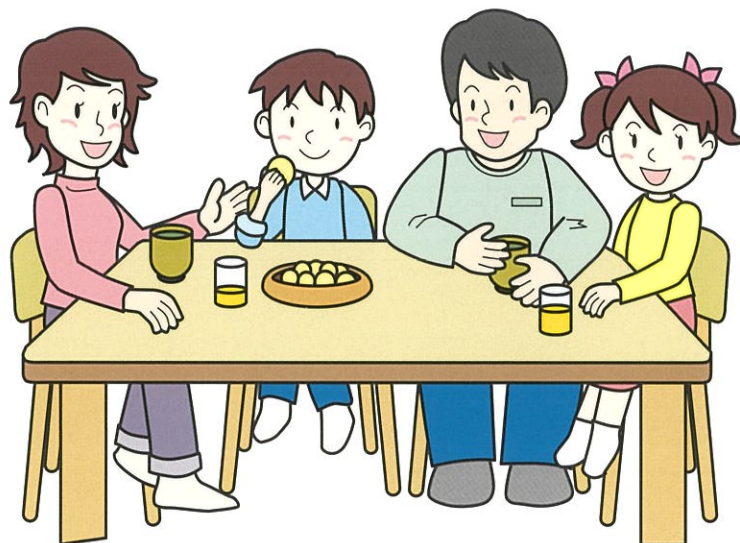
時間が許せば、または後から各自で、P 28、29のワークシートに答えてみましょう

3の表6 プログラム使用の流れ（ワークシートはどのエピソードの後でも使用できます）

①から⑤のどのエピソードの後でも、28、29ページのワークシートは使えます。

時間に余裕があるときや、研修会の後で各自や家族での話し合いに使用することもできます。

作業	時間	活動	留意点
1 に答える	3分	1 自分の親の子育てを今になって思い出してみてください。	○親になった自分から、自分の親の子育てを振り返り、親の思いに近づく。
2 に答える	3分	2 様々な子育て場面を思い描いてください。	○自分の経験も振り返り、子どもが、ここぞと親を頼りにする場面を考えてみる。
3 に答える	5分	3 これまでの子育てを振り返り、良かったと思うことと、反省した方が良かったと思うことを整理してみましょう。	○良いことは、自信をもってこれからも続け、客観的に見て反省する点があれば、修正する努力をしていくことができる。
4 に答える	3分	4 これまでに話し合ってきたことや、資料のグラフ等も参考にしながら、どのような親になりたいかについて整理してみましょう。	○親としての努力目標が明らかにできる。
我が家のルール	3分	5 親の思い、子どもの思いをもとに、家族の共通理解できることを明確にしてみましょう。	○家族が話し合うことによって、より家族相互理解や絆が深まる。



3の表6 プログラム使用の流れ（ワークシートはどのエピソードの後でも使用できます）

①から⑤のどのエピソードの後でも、28、29ページのワークシートは使えます。

時間に余裕があるときや、研修会の後で各自や家族での話し合いに使用することもできます。

作業	時間	活動	留意点
1 に答える	3分	1 自分の親の子育てを今になって思い出してみてください。	○親になった自分から、自分の親の子育てを振り返り、親の思いに近づく。
2 に答える	3分	2 様々な子育て場面を思い描いてください。	○自分の経験も振り返り、子どもが、ここぞと親を頼りにする場面を考えてみる。
3 に答える	5分	3 これまでの子育てを振り返り、良かったと思うことと、反省した方が良いと思うことを整理してみましょう。	○良いことは、自信をもってこれからも続け、客観的に見て反省する点があれば、修正する努力をしていくことができる。
4 に答える	3分	4 これまでに話し合ってきたことや、資料のグラフ等も参考にしながら、どのような親になりたいかについて整理してみましょう。	○親としての努力目標が明らかにできる。
我が家のルール	3分	5 親の思い、子どもの思いをもとに、家族の共通理解できることを明確にしてみましょう。	○家族が話し合うことによって、より家族相互理解や絆が深まる。

